

平成26年度

一般社団法人 神奈川県総合型スポーツクラブネットワーク

クラブマネージャー研修会報告



マホロバ・マインズ三浦11Fからの朝焼け

研修会実施日 12月7日(日)～8日(月)
場所 マホロバ・マインズ三浦
三浦市南下浦町上宮田 3231
参加者 21名

I. 実施内容

1. 開催日時 平成 26 年 12 月 7 日（日） 13 : 00～20 : 30
2. 開催場所 マホロバ・マインズ三浦
三浦市南下浦町上宮田 3231
3. 出席クラブ&人数 8 クラブ 以下略称
(寒川総合、善行大越、高津 SELF、横浜かもめ、若葉台、よこすか総合、あしがらあすぽ、城下町、関係者)
合計 21 名 (宿泊 18 名)
4. プログラム
7 日 13 : 00 ビーチバレー視察 (三浦海岸)
三浦スポーツ&カルチャークラブ
14 : 00 会議
「クラブの財源確保と自立化について」
「KSN の今後のありかたについて」
18 : 00 懇親会
(三浦スポーツ&カルチャークラブ参加)
8 日 朝 解散

II. 会議内容

1. ビーチバレーの視察 (三浦スポーツ&カルチャークラブ主催) 13 : 00～
 - ・三浦海岸で実施のビーチバレーの視察を行った。
 - ・三浦スポーツ&カルチャークラブの園田氏はじめクラブの皆さんに面会し、交流を深めた。
2. 会議 於：マホロバ・マインズ三浦 1 1 F 会議室 14 : 00～17 : 00
 - 1) クラブの財源確保と自立化について
 - ・菊地事務局長より、開始に当たり SC 全国でも組織化の動きと今後のクラブ自立化・事業化へ向けての可能性を説明。(吉本興業の総合型 SC とのコラボ提案等)
 - ・自立に向けての事業を考えると、大きな事業をいきなり受託することは難しいため、自分たちが今できること、あるいは小さな案件 (事業) から取り組み実績を積んでいくことが重要。
 - ・参考事例として、高津 SELF のイベントからの収益例、KSN 主導として可能性のある例を説明。
 - ・収益を上げる事業として目新しい特別なことはなく、アイデアや工夫を施しユニーク性を生み出すことが必要ではないか。

2) ディスカッション（主な意見）

- ・アスリート（バスケット）による特別教室を開催して、人を集めることの重要性を実感した。講師への指導料の支払いのほかクラブの取り分も確保できた。
- ・特定種目の学校への出前授業を計画したが、直接的な収益にはつながらない。
- ・toto 助成が終わりスポットイベントや学校放課後事業等を実施しているが、参加費が安く収益には繋がらず、恒常的な会員確保と財政確保が課題となっている。
- ・会員を増やすしかないと考えている。将来を考えると若い人を雇用する必要がある。その為には、現在の会費収入だけではむずかしい。その点が課題だ。
- ・ドイツでは、そのクラブに所属することをステイタスに感じている。日本でもそうならないといけない。
- ・HP の作成や事務局業務の受託、通常の教室に新たな内容を付加してプラス料金にして参加費をもらっている。
- ・学童保育団体から一部を再委託して収入を得ている。
- ・子育て支援は総合型 SC としても、ビジネスチャンスの一つといえるのではないかと考える。
- ・岩手県の SC は、会員制をやめてすべて都度料金制にして成果を上げているところもある。
- ・4年目を迎え、資金面の課題を抱えている。クラブ運営、スポーツ学童保育、子育て支援を来年の活動方針の柱に据えている。
- ・市からの委託でアンケートのヒアリング事業を請け負っている。
- ・収入のウェイトは会費収入と施設管理（体育館、校庭、野球場）＝協力費で利用料の徴収がほとんどだ。
- ・文化的な種目、教室を増やしていきたい。英語、中国語等（講師は地域の人）
- ・地域のイベント（運動会等）を請け負っている。
- ・近隣クラブとの協力、協業により行政からのイベントを行っている。
- ・指定管理（プールやテニスコート）を総合型クラブに請け負わせてもらえるような投げかけを行政にしていくことが重要。高齢者のスポーツ事業はこれから目をつけていくべき事業だ。
- ・指定管理の受託は財源確保に有効であることは間違いないが、更新に関わる入札は、現状の業者が強いため新規案件を企業とタイアップして狙うことがいいのではないか。

<まとめ>

- ・会費収入だけでは、運営を賄えない中でどうしていくかという議論だったが、仕組みやノウハウを販売して成果につなげているのは1クラブのみで、物（ハード、ソフト）を販売するという点に注目してもいいのではないか。
- ・新たな種目、案件を追加して収入源につなげていく
- ・今、収入につながらない事業でもアイデア、工夫をして付加価値をつけられれば事業となるかもしれない。

- ・若い人材の確保は将来的な課題だが、どの総合型 SC にも共通していえることで、金額（収入）の問題のみならず、キャリアパス（人事制度等）にも関わることだ。単独クラブとしてよりも KSN 等大きな組織として考えていく必要性がある。

3. KSN の方向性

- ・「クラブ交流会」報告（藤沢市長に臨席頂いた）

今年度は身障者の団体に協力頂いて行ったが、結果的には昨年同様、限られたクラブの参加にとどまった。来年の交流会に関しては、会そのものの目的、狙いから議論し、継続すべきか、するなら各クラブの協力体制等を含めて考えなければならない。

- ・情報誌「斯的」について

toto 助成が減額されていること、ロードの点を含めて情報誌の発行そのものを継続するかも議論してほしい。このことは情報誌発行にとどまらず KSN の活動そのものに関わるものとする。

- ・この点は、年内に理事会を開きある結論を出していきたい。
- ・交流会は全員「継続したい」で一致。
- ・情報誌は紙、印刷費を削減するよりは、スポンサーを募るか、発行回数を減らすかに

4. 夕食&懇親会 18:00~20:30

以上

添付資料

別添付資料	クラブマネジャー研修会当日資料
	クラブ交流会実施報告書
写真	次ページ

<ビーチバレー視察>



ビーチバレーの熱戦
(三浦スポーツ&カルチャークラブ主催)



星槎箱根総合型スポーツクラブ
金井 幹英事務局長の説明

<研修会の様子>



